

# マクロ経済学

## 講義ガイダンス

山田知明

明治大学

講義ガイダンス



# 講義に関して

- 講義内容：マクロ経済学の基礎
- テキスト
  - ダロン・アセモグル/デヴィッド・レイブソン/ジョン・リスト『ALL マクロ経済学』東洋経済新報社
- 参考書：もっと知りたい人向け
  - 平口良司・稲葉大『マクロ経済学 [第3版] 入門の「一歩前」から応用まで』有斐閣ストゥディア
  - 齊藤誠・岩本康志・太田聡一・柴田彰久『マクロ経済学』有斐閣
  - オリヴィエ・ブランシャール『ブランシャール マクロ経済学』東洋経済
- 事前知識
  - 経済学 A を理解していることを前提に話をします

## 講義に関して (続き)

- 講義関連情報について
  - Oh-o!Meiji 経由
  - スライドも Oh-o!Meiji にアップロード
  - <https://tomoakiyamada.github.io/>
- 成績評価
  - 原則として、毎週提出する課題（小テスト）により評価を行う
  - 経済学 A のような計算問題は少ない
  - 自分で統計などを調べてもらう課題もある

# 経済学 B の概要：テキストの目次より

1. 国の富
2. 総所得
3. 経済成長
4. なぜ豊かな国と貧しい国があるのか？
5. 雇用と失業
6. クレジット市場
7. 金融市場
8. 景気変動
9. 反循環的マクロ経済政策
10. マクロ経済と国際貿易
11. 開放経済のマクロ経済学

## 経済学 B の概要：テキストの目次より (続き)

1. 国の富：第 II 部 マクロ経済学への誘い
2. 総所得： //
3. 経済成長：第 III 部 経済成長と発展
4. なぜ豊かな国と貧しい国があるのか？： //
5. 雇用と失業：第 IV 部 マクロ経済の均衡
6. クレジット市場： //
7. 金融市場： //
8. 景気変動：第 V 部 景気変動とマクロ経済政策
9. 反循環的マクロ経済政策： //
10. マクロ経済と国際貿易：第 VI 部 グローバル経済のマクロ経済学
11. 開放経済のマクロ経済学： //

## II. マクロ経済学への誘い

経済を診断する：政策当局が参考にする主要な指標の例

### 1. GDP (国内総生産：Gross Domestic Product)

- 一国の豊かさや経済状態を測る指標
- 何をどうやって測っている？

### 2. 失業率

- あと数年後には就職活動
- 時代と共に変わる雇用環境 ⇒ 日本的雇用環境の崩壊？

### 3. 物価 (インフレーション・デフレーション)

- インフレ/デフレの何が問題か？
- 中央銀行 (日本銀行) の役割と金融政策

## 物価：スウェーデンの場合



# 物価：スウェーデンの場合





[illegible]

### III. 経済成長と発展

#### 長期的 (Long-run) 視点から見たマクロ経済

- 「なぜ我々はかくも豊かで彼らはあのように貧しいのか？」
  - 日本、アメリカ、BRICs、アフリカ諸国 etc.
- 豊かな国と貧しい国の違いを生み出すメカニズム

## IV. マクロ経済の均衡

- マクロ経済において重要な市場を個別分析：ミクロ経済学の応用
1. 雇用と失業 ⇒ 労働市場
    - なぜ失業が発生するのか
    - 賃金決定の基本的なメカニズム
  2. クレジット市場と金融システム ⇒ 金融市場
    - 銀行の役割
    - 貨幣、物価とインフレーション

## V. 景気変動とマクロ経済政策

### 短期的 (Short-run) なマクロ経済変動

- 好況と不況のメカニズム
  - 大恐慌 (the Great Depression) と大不況 (the Great Recession)
  - バブル崩壊以降の日本経済
- 不況の何が問題なのか？
  - 雇用不安と失業
  - インフレーション・デフレーション (物価変動)
- マクロ経済政策
  1. 財政政策：国債発行と財政の持続可能性
  2. 金融政策：非伝統的金融政策から金利のある世界へ

# 『マクロ経済学』が生まれた背景

- 大恐慌：1929 年
  - 原因については今でも様々な意見がある
  - 金融的要因？それとも実物的要因？
- マクロ経済学の役割：1936 年
  - J.M. ケインズ『雇用、利子及び貨幣の一般理論』
  - ケインズ経済学
    - 現在のマクロ経済学のスタート地点
    - 基本的な発想：財政・金融政策でマクロ経済を安定化
  - 対立する (?) 見解
    - 最近の経済学者はあまり “学派” とか言わないけど...
    - 新古典派経済学 vs ケインズ経済学
    - Pure water economics vs Salt water economics

# ルーカス批判：マクロ経済学のミクロ的基礎づけ

- 市場に頼るべきか、それとも積極的に景気対策すべきか？
  - 新古典派総合：短期と長期の使い分け
- ケインズ経済学の有効性と限界：1960 年代
  - スタグフレーション (高インフレ+高失業) の説明に苦慮
- ルーカス批判：1970 年代
  - 「経済政策を行うと人々の意思決定も変わるので、マクロ経済政策を考えるうえでミクロ的な人々の (合理的な) 行動を無視するわけにはいかない!」
  - マクロ経済学のミクロ的基礎づけ ⇒ 一般均衡的視点

# ケインズ経済学の復権？

- 1990 年代以降、世界経済は安定化
  - 偉大な安定期 (the Great Moderation)
  - マクロ安定化政策がうまくいった結果？偶然？
    - 金融政策によるファインチューニング
- 大不況：2008 年
  - 米国における信用の拡大と不動産バブル
    - 国境を超えるマネーと金融規制のあり方
  - 協調的な財政政策 ⇒ 新たな危機へ
  - 量的・質的金融緩和と “アベノミクス”
- 更なる課題
  - パンデミック後の世界経済
  - 少子高齢化と財政の持続可能性
  - 戦争とインフレーション

# まとめ

## 講義目標 (1)

マクロ経済統計の中身 (と問題点) を理解する

## 講義目標 (2)

長期と短期のマクロ経済学を理解して、日本経済や世界経済の動向を自分の言葉で説明できるようになる

## 講義目標 (3)

政府が行なうマクロ経済政策の意図とその是非を分析できるようになる